



(題字 吉岡名誉顧問)

育成会 だより

第95号令和2年2月 発行

東大阪市手をつなぐ育成会

(年 3回)

研 修 会 特 集

会長 坂本 ヒロ子

11月から大会や研修会の開催が続きました。親や子も高齢化するなかで、何を大切にしたらいいか改めて考える機会になりました。参加できなかった方にもお伝えしたいと思います。

11月11日第二東福多目的室で開催したしゃべりま専科は

心をつなぐきろく(30年3月改定版)

34ページのももしも私に.....があった時

- ・相談してほしい人
- ・病気の時
 - 同意書
 - 保証人
- ・病気の時のわたしのおもい
 - 手術の時
 - 延命治療の時
 - その他

ご本人用



社会福祉法人 大阪手をつなぐ育成会
生活支援部
平成30年3月発行

を中心に書いてみようということではじめましたが、各々、書きはじめると参加者から疑問・質問が多数でした。途中から第二東福相談支援センター高田管理者が参加して下さり、現在の支援の様子や事業所でできること、親兄弟でないとできないこと等を聞くことができ、有意義な時間となりました。

Q1 私にもしものことがあった時

・事業所でできることは？

障害支援区分等更新手続きは家庭の残された人がするのですが、わからない所は日中事業所もお手伝いさせていただき、徐々に家族にさせていただけるようにします。

・他の家族や依頼できる人がいない場合は？

後見人をつけていただくこととなります。(申立書を書く人の紹介等相談はお受けします。) 四親等内の親族がいない場合は市長申立をすることとなります。

・ 子どもの病気、手術の時は？

同意は家族しかできません。後見人も事業所もできません。

・ 経済的に困った時は？

生活保護受給申請のお手伝いをさせていただきます。

Q2 現在、後見人のついておられる利用者はおられますか？
もし、おられたらその方の様子はいかがですか？

後見人が月1回面会に来て、本人、事業所と話し情報を共有しております。その利用者が以前、勤務されていた会社の社長さん、お孫さんも気にかけて訪問してくださって安定した生活を送られています。

Q3 第二東福でしている共生型とは？

現在の障害福祉サービスの生活介護事業所が介護保険サービスの通所介護事業を行えるようにするもので、東大阪市において第二東福と2事業所が指定を受けました。これにより65歳以降もなじみのある事業所(第二東福)に引き続き、環境かわることなく通所することができます。

第二東福は高齢になられた利用者がおられたので、その指定を取り、支援しています。等々いろいろな話ができました。

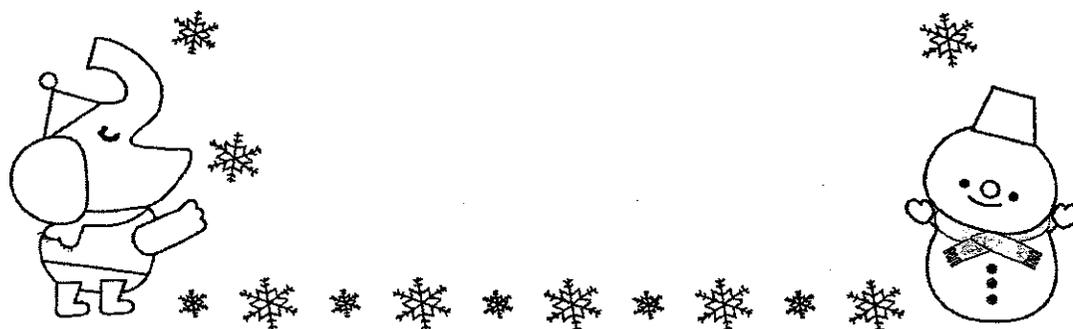
『しゃべりま専科』は「この場のことはこの場限り(守秘義務)」「発言者の意見、思いを否定しない」を原則に開催しております。ぜひ、多くの方の参加を！

この“心をつなぐ”を記入し、家庭用とは別に事業所へもぜひいただきたいと高田管理者は言われました。親にしかできない我が子への愛情の一つだと思います。記入できる所から書きはじめて完成しましょう

今回は3月9日(月)啓発キャラバン隊「ともにて」のプレオープンを第二東福 多目的室で開催しますので、どうぞご参加下さい。

11月17日神戸市で開催された近畿大会は“考えよう 本人の高齢化、親の高齢化”がテーマでした。

が、その中で国立のぞみの園 古川慎治部長が「何を残せば、いくら残せばいいのか。」とよく聞かれますが、私は愛情と思い出を残してあげて下さい。お金は年金があるのでないよりあった方がいい程度に、少しでいいので自由に使えるお金を残してあげて下さい。そして、「記録の大切さ」と「地域を育てる大切さ」を言われていました。そうした時「それぞれの心をつなぐ記録の完成」と現在している啓発キャラバン隊「ともにて」のパワーポイント、シナリオ作成が急がれます。



1月20日(月)家族教室「うっとうしくない 愛を残すために」は明星大学 吉川かおりさんに来ていただきましたが、近畿大会の話に関連した研修になりました。

参加したとうふくの保護者 阪上豊子さんが研修内容を下記のようにまとめて下さいました。

『うっとうしくない 愛を残すために』

「冒頭で、今日は、お子さんが中年程度になっている方にとって何が不安か、これは子どものためになっているかを検証します。と、言われました。

社会的障壁・・・親が子どもに対して(危ないから)ダメダメ というのも障壁になる。と言われました。それでは監督された暮らし、管理された暮らしから抜け出せない。安心と安全が行き過ぎると監視になってしまうので、自分が愛されているのだという自己肯定感をつかむことができない。やってみもしないことはわからない。知的障害や発達障害がある人には豊かな生活体験が必要。

障害のある人は、本人の生活体験の幅が狭くなりやすい。

監督された暮らし、管理された暮らしから抜け出させるには、どこから親が腹をくくるかでここから先は本人が選んだものと思わせることが大切。

本人の意欲を育てるには、本人の小さな意欲を見つけて育てる。常に子供として扱っていると、本人は大人になれない。子供としての様式で育ってしまう。自分の心の苦しさを埋める(無力感からくるやるせなさ)ために、常同行動をしたりする。

重度の知的障害の人でも反抗期がくる。徐々に徐々に30代で反抗期が来る人もいるので、生理的な指標を見つめながら、関わっていかなければならない。

自分は何も考えなくても周りがみんな用意してくれたら本人の意欲がなくなる。豊かな生活体験も深まらない。自我の芽をつぶしてはいけない。

大事なものは、生きていく力。挨拶ができる。人にありがとうと言えることもすばらしい。

うっとうしくない 愛を残すためのポイントは

- * 本人が「いろいろな顔」を持つのを支援する(大人になる⇔社会の中で生きる)
- * 社会的障壁を解消する方法を考える(親の会活動、本人活動、ネットワーク)
- * 心身の機能障害を補う工夫を考える(可能性がみえる)

ことだと話されました。」



さあ 出発です！ 啓発キャラバン隊『ともにて』

実行委員 原田 ニ三恵(とうふく保護者)

「キャラバン隊」は、2003年に神奈川県座間市の親の会で産声をあげました。寸劇や体験を通して、知的障害のある人の感覚や置かれた環境を伝えるものです。

参加者の固定的な見方を揺さぶり、より深く知的障害について知ってもらうことを目的にしています。(「手をつなぐ」より)

東大阪市手をつなぐ育成会においても、『希い』に「なぜ 『啓発キャラバン隊』？」と題して坂本会長の寄稿があります。その中において、

『サービスは充実してきました。しかし、それだけでいいでしょうか？ 私たちの子が日常生活を豊かにするためには、日頃、気にかけて見守ってくれる人を身近な地域に増やすことが大切です。この東大阪市においても無理解や偏見があったり、不審者と勘違いされることがあります。これらは、理解が深まれば問題も減っていくと思われれます。幼少期からの理解は、将来の「気づき」や「思い」につながることを考えられます。』と学校における理解啓発を進めていく必要性を述べられています。

2019年7月実行委員会を立ち上げ、検討を重ね、啓発キャラバン隊『ともにて』として活動できる運びとなりました。

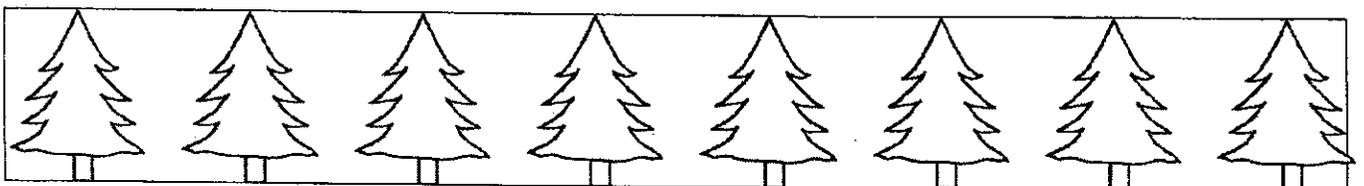
7月、関哉直人弁護士に「なぜ学校における啓発活動が必要か？ 全国のキャラバン隊の様子」と題して講演していただき、キャラバン隊のイメージをつかむきっかけとなりました。

そして、9月、尼崎市の啓発キャラバン隊『まんまるは一と』の方々を迎え、ワーク・実演の中に、私たちが子どもになり、体験をする場を設けていただきました。日頃気づいていない困りごとなどを改めて実感し、理解を深めていくことの大切さを学ぶことができました。

実行委員として、坂本会長を委員長として、13名の委員で月1回の実行委員会を開いてきました。中でも、中井さん、瓜生さん(ともにとうふく布施の保護者)が委員の意見を聞きながら、パワーポイントを使っての『ともにて』の冊子を完成して下さいました。

また、ハンドレットラボの百瀬さんからも冊子作りをする上で、適切なアドバイスをいただきました。

2月に実行委員会の中でリハーサルを行い、3月の『しゃべりま専科』で会員の皆さんの前で実演する予定です。ぜひ、参加していただき、厳しくも温かいご意見をいただけたらと思います。さらなる『ともにて』の充実を願っています。



施設見学

咲の樹 (えみのき)

とうふく布施保護者 松岡 賀恵

12月13日、神戸市の社会福祉法人新緑福祉会の咲(えみ)の樹を見学に行きました。

利用者、保護者の高齢化に対応するために建てられた施設で、入居対象は利用者本人が40歳以上であるか保護者が75歳以上である人。

敷地は神戸市から無償提供。建物建築費はグループホーム2棟、ショートステイ棟の3棟で3億円。

東大阪を出発し高速道路を乗り継いで阪神高速道路の出口を出ると広々とした敷地のところどころに建物が見えてきました。

咲の樹に到着し、建物に入ると樹の香りの漂う素敵な空間が広がっていました。

食堂の床には床暖房が！くつろぎの空間でお弁当をいただいてから、お部屋や設備の説明をしながら案内していただきました。

グループホームは彩葉(いろは)と青葉の2棟あります。

スケジュールは

6:30 起床

7:00 朝食

8:30 日中活動場所への通所・通勤

15:15 帰宅

入浴 毎日入浴。ひとりずつ。お風呂は介助の必要のない人用の小さいものと、介助が必要な人用のリフト(後付け120万円)付きの大きめのお風呂あり。

18:00 夕食 ごはんは炊飯するが、おかずはクックチルド式で温めるだけ。

19:00 余暇、翌日の準備、Wi-FiがあるのでYouTubeを楽しんだり、テレビをみたり。

21:00 就寝

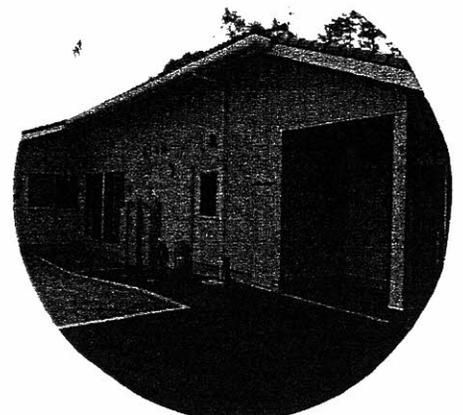
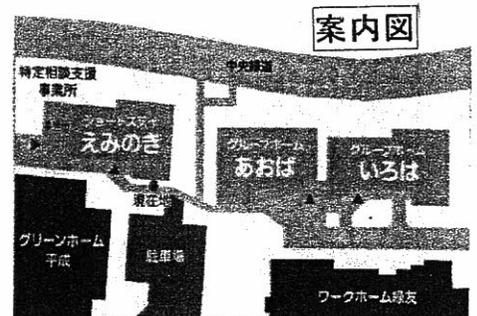
個室設備 エアコン・ベッド・カーテンは設置。それ以外は利用者で用意する。

サービス 洗濯は毎日しているので、着がえは最小限の持ち込みで大丈夫。

シーツ・タオル・布団は2,300円で利用できる。

1ヶ月あたりの費用

家賃	53,000円
家賃補助(国)	-10,000円
家賃補助(神戸市)	-15,000円
食費	27,500円
光熱費	15,000円
リネンサービス	2,300円
おこづかい	?
合計	72,800円+おこづかい



施設建設の際考えたのが、現在だけでなく将来の利用者の姿。今は元気でも高齢になり身体機能が衰えてきたときに必要になってくる設備は何か？ 咲の樹では、コールボタン(ナースコールのようなもの)を壁に設置済み。現在は必要がないので壁紙で覆って隠している。

今回、咲の樹を見学させていただいて、子供たちに将来どういう暮らしが必要になってくるのか、どういう暮らしをしてほしいかをしっかり考えることが、住まいを考えるうえで重要だと気づかせていただきました。グループホームへの入居を考えるのはまだまだ先だと思っけていても、将来の子供の生活を想像し(時には妄想)ながらいろいろなグループホーム等を見学させていただいて理想の住まいを考えていきたいと感じました。

レク部会より

クリスマス会に参加して

第二東福保護者 小山 静子

毎年楽しみにしているレク部会のクリスマス会が12月14日(土)に開催され、親子で参加させて頂きました。

今回は、「あじろの樹」貸し切りでお料理もお店で用意して頂きました。

ビーフシチュー、ピラフ、サンドイッチ、カラアゲ、ポテト、ケーキなど一杯のご馳走でお腹も満腹になりました。

シンガーソングライターひきたまさんの楽器(アフリカの民族楽器カリンバとブラジルの楽器バンディロ)の演奏を聞きながら、皆が知っているクリスマスソングの時は歌ったりと楽しい一時を過ごさせて頂きました。

第二東福からは4組参加されていました。サンタさんからプレゼントを頂き、みんな笑顔になっていました。

今年も参加したいと今から楽しみにしています。



啓発キャラバン隊より

『ともにて』今後の予定

◆2/14(金)リハーサル 10:30~
第二東福 多目的室

◆3/9(月)しゃべりま専科! [実演]
10:30~ 第二東福 多目的室

いよいよ啓発キャラバン隊『ともにて』が発します。

上記の日程で皆様にお披露目させていただきます。皆様のご参加をお待ちしております。



〔編集後記〕

◆インフルエンザに併せて新型コロナウイルスの感染が拡大しています。過剰に心配することなく基本の「手洗い・うがい」などと十分な睡眠とバランスのよい食事を心がけ免疫力を高めるなどして乗り越えていきましょう。

◆東大阪市手をつなぐ育成会では、親同士が集える場所を探しています。手作りや会議などができる所で、駅(布施~瓢箪山)に近く家賃6万円程度の物件です。心当たりのある方は坂本会長までお願いします。

とうふくには電動ミシン2台、ロックミシン1台があります。 (S)